

# 外部評価を活用した授業改善

## —教育実習を通しての外部評価の活用—

Lesson improvement by utilizing external evaluation through practices  
in elementary school by training teachers

西 出 稔  
Minoru NISHIDE

### はじめに

授業改善の方法としては、一つは、指導者である教師の側から授業を分析する方法があり、一般的には授業中の質問に対する応答内容や授業態度から、自己の授業を振り返ることができる。さらに、各種試験やレポートにおける期待値との比較から自己の授業を反省し、授業改善へ繋げることができる。二つ目は、授業の受け手である学生による授業評価も授業改善にとって大切な要素である。授業内容の面からは、シラバスで示した内容に即した授業が行われたか。時代や教育内容の変化に対応する内容になっていたか。学生の実態に即した内容構成になっていたか、という観点から一般的に毎年見直しが行われている。三つ目は、授業方法について、学生の理解度の向上、基礎的内容の定着、学ぶ意欲を喚起する手法、自己表現力を伸ばす方法が取られていたか。また、授業内容がわかりやすく構造化された板書の工夫がなされていたか、使用される資料が適切であり授業によく活用されていたか、教育機器を活用しよりわかりやすい方法を工夫していたか、教師の説明の仕方は適切であったか等の授業技術の観点からの評価が校内でも委員会を中心に分析的に行なわれている。

しかし、どんなに優れた方法で内部評価を行なっても、それだけでは自分よがりの評価になってしまう危険性がある。これまでのように、教育が外部から遮断され閉ざされた中で行なわれていては、井の中の蛙になりかねない。今学校現場では、進んで自校の教育方針や教育活動を外部へ公表し、外部の声を学校運営に取り入れる活動が定着しつつある。現在大学教育においても、教育方針や教育活動、さらにその成果についての公表は一般化されつつある。しかし、個々の授業に対しては、各教師間の声はもとより外部の声を聞く機会はほとんどないのが現状である。これは、大学の授業自体が専門性が高く、授業を受ける学生以外の外部の人間にとっての関心と直接の関わりが少ないことに要因がある。近年報道機関を通して大学における教育の在り方が問われ始めている。更なる学力の向上、社会が求める人材の

育成等，高等教育機関としての本来の役割を問うものが多い。しかしその手法については，各学校の主体性に委ねられている現状にある。

児童教育コースの専門分野での授業内容は，将来教員になるために必要とされる資質の育成という面で，教育界では具体化され，ある程度現場の学校では共通化されている。そこで，本コースでは，授業の大局的目的である教員としての資質の育成度をもって授業改善の視点とすべく，その客観的判断を教育実習時の外部評価にお願いすることとした。また，できる限り厳正な評価をしていただくため，実習校を固定化し，事前に大学における教育内容と評価の観点及び評価の基準を示す説明会を実施している。また，大学における授業に対し，実習生の育ち具合をもとに，感想・意見・要望をアンケート形式で書いていただき，その内容に即し，大学側の授業をどう改善していったかを毎年示すことにした。この方法を継続することで，実習校の担当者は自分たちの意見や要望が大学の授業や実習の取り組みに反映されていることを知り，一体感をもって指導していただき，厳しい指摘もしていただけるようになり，信頼関係も深まってきている。

ここに，その詳細と過去5年間の外部評価で指摘された事項と，大学側の授業改善の様子を報告する。

## 1. 指導内容に即した自作手引き書・日誌・評価の観点の作成

児童教育コース開設2年目までは市販の手引き書，及び日誌を使用した指導を行ってきた。しかし，出身地で行なう母校実習では，統一した観点で指導ができず，実習校任せになり単位修得のための実習になってしまいがちだった。3年目を迎えるにあたり，地域に根ざした教育推進を進めるため，市内の各小学校と協力関係を結んだ。大学側は教育実習をお願いし，各小学校側は，日常的に大学生による教育ボランティアをお願いできるという双方向的な関係を，市教育委員会，市内小学校校長会，大学の三者で構築していった。

それに伴い，お願いする教育実習の内容と方法，さらに大学での事前指導に使用する手引き書の内容についても事前に原案を示し，広く意見や要望を聞くことにした。各校からいただいた声を手引き書作成に活かし，さらに，事前指導のための授業構成にも役立てていった。

### (1) 各学校に検討していただき作成した手引き書の内容

#### ① 実習の意義と目的を明確にする

なぜ，教育実習が義務づけされているのか，またその目的は何かをしっかりと認識させた上で実習を開始することが，実習校からも求められていた。そこで大学では，実習の意義と目

的を以下のように示した。

- 教育理論の実証的研究としての教育実習…理論と実践の一体化による確かな授業づくりを目指す。
- 職場としての学校生活の体験…学校という組織における仕事内容の理解と一社会人としての見識を身につける。
- 児童とのふれあい…児童理解の基本である児童とのふれあいを通じた人間関係及び信頼関係の構築の実際を体験する。
- 教職意識の向上…教育の魅力を知り、将来教職を目指したいという思いを強くすると同時に、児童の成長に対する責任感を自覚する。

## ② 実習生（教師）に求められる資質能力を定める

実習生といえども、教師であるという意識に立ち、全力で実習に励むと共に、この実習を通して、自己の学力と生活態度を改めて見つめ直す機会とする。また、大学教育のねらいでもある研究を重視した教育を推進するため、自己研究課題を設定させ、実習を通して主体的に追究させることとした。

そこで、教育実習を通して育成したい教員としての資質を以下のように設定した。

- 教師としての使命感を持つ…教育公務員としての自覚と責任ある行動を身につける。さらに保護者の期待を裏切らない。
- 子ども理解を深める…発達に即した遊びや仲間関係等の子どもの世界を肌で知る。学習理解の個人差と個々の特性に気付き、その対処法を考え実行する。
- 児童への愛情豊かな教育者となる…子ども好き、親切・丁寧な指導、公正・公平な態度、優しさと厳しさを兼ね備えた教師になるよう努力する。
- 教えるプロとしての自覚を強く持つ…教科に対する基礎・基本を身につける。教育技術を身につけ「わかる」「できる」「身につく」授業の構築に努める。
- 子どもを引き付ける魅力を持つ…人間としての魅力（明るさ、子供向けの話題豊富等）、特技による魅力（遊び、音楽、スポーツ好き等）を生かし、子どもの心を掴むよう努力する。

## ③ 実習を通して特に学ばせたい内容を示す

各実習校の指導者に大学側で望んでいる事項を示し、さらに、実習に当たっては受け身としての実習から自ら進んで課題解決に向け主体的に実習に臨む実習生を目指していることを知らせる。その観点として以下の4点を示した。

ア、【子ども理解に努めさせる】

- ・児童には個人差があることを把握させる。(性格、理解度、行動の特徴等)
- ・学年発達段階・時代の変化に応じ興味・関心が異なることを実感させる。

イ、【「わかる」「できる」「身につく」授業実践に努めさせる】

- ・各教科指導案の作成に慣れ、それをもとに授業実践を行い、検証・反省する態度を身につけさせる。
- ・教材・教具の工夫と指導技術（発問、活動、板書を中心）を身につけさせる。

ウ、【学校・学年・学級組織運営についての理解に努めさせる】

- ・学校職員の職務と服務規程、公務員としての義務や禁止事項について再確認する。
- ・学校・学年運営が教員・職員の協力体制で実現していることを理解する。
- ・学級経営の計画と実践面での留意点を知る。

エ、【教育環境の意義理解に努めさせる】

- ・学級組織づくりと教室内の人間関係の関連について理解する。
- ・学びを助長する教室環境・安心・安全・楽しさを感じる教室環境の実際を知る。
- ・校内全体の教育環境と学校の雰囲気について実感する。

## 2、教育実習で学びたい事柄と不安要素（学生アンケート）を示し、実習前の学生の実態を理解していただく

教育実習前（4月当初のアンケート。実習は8月から）の学生の実態アンケート結果詳細

### (1) 教育実習の意義についてあなたはどのように考えていますか

- ・これからの教師を目指す上で基礎になることを学ぶ。
- ・教育実習をすることで、実際の教育現場を知り、今の教育状況を理解すると共に自分も実践し指導力を高める。
- ・教員免許をもらい、実際に教壇に立つまでに少しでも児童のことを把握・理解し、教師として児童に教育ができるようにする。
- ・教師になりたいという思いをより一層強くする場であり、現在の児童の様子を身をもって体感できる場であり、未熟な自分を成長させるために必要な場だと考えている。
- ・現場で実践を積めるいい機会。人前で話すことに慣れたい。
- ・将来教職に就くための心構えを持つことや、教職に対する自分の自覚をもつこと。
- ・将来自分が教師を目指すに相応しいかを確認できる機会であると思う。
- ・教員になるための力をより一層高め、勉強だけでなく心も養う場である。

## 【教師からのアドバイス】

教育実習は、単に教員免許状を得るための条件や自分が教師に向いているかどうかを試す場ではありません。受け入れていただいた各小学校では、校務多忙な中実習生のためにわざわざ時間を割いてくれ、さらに児童の皆さんは、貴重な学習時間を一緒に過ごしてくれる協力者でもあります。それは、皆さんが将来立派な教師として教壇に立つことを条件に引き受けてくれたものなのです。是非教員になりたいという強い意志を持った上で実習に臨んでください。

## (2) あなたが理想とする教師像についてどう考えていますか

- ・子どもたちの力を引き出せる教師。
- ・児童のことを信頼し、児童にも心から信頼される教師。
- ・生徒と共に過ごして後悔していないと言い切れる教師。「公平」を大切にせる教師。
- ・児童を大切にし、児童がいつでも好きでいられる教師。
- ・真面目な場面はちゃんと取り組むけれど、楽しい時は児童と一緒に笑い合えるような教師になりたい。
- ・児童が気軽に相談でき、日常のことについて話ができる教師。
- ・児童が卒業し、月日が経ち成長した姿を見ても、パッとその子が誰なのかを頭に浮かぶような一人ひとりの児童を見ていられる教師。
- ・児童を全力で守る姿勢を保ち、同じ目線で物事を感受できる教師。
- ・一方的に教えるのではなく、子どもの視点に立って考え、一緒になって成長できる教師。また、良いことは褒め、悪いことはしっかりと叱ることができる教師。
- ・自分というものを強く持っていること。他と同じだと児童を引き付けることができないため、自分だけの武器、魅力をもった教師。
- ・嫌々勉強している児童に、少しでも学ぶことや物事を理解することは楽しいということを伝えられるような授業ができる教師。
- ・子ども一人ひとりに合った対応や指導ができ、保護者や地域などと協力し、よりよい教育をしていける教師。
- ・私の理想の教師像とは、児童・生徒みんなを包み込む心を持ち、ダメな時にはしっかり指導できる教師。
- ・生徒の喜怒哀楽を共にできるような教師。
- ・多少厳しくても児童がついてきてくれる教師。「意味ある授業」を行える教師。

- ・授業だけでなく、休み時間、掃除時間なども児童と過ごす教師。

#### 【教師からのアドバイス】

一人ひとりしっかりとした教師像を描いています。その理想像に少しでも近づける日常の努力を実習中にもできたら素晴らしいと思います。ただ、「子ども」「児童」「生徒」という色々な呼び名が出てきています。実習時の記録や提出物には、小学生が相手なので「児童」という呼び名に統一して使ってください。いつも「初心」に帰り、一步一步理想とする教師像に近づくことを目指し、生涯を通して努力を継続し立派な教師になってください。

#### (3) 教育実習の中であなたが一番学びたいこと、してみたいこと

- ・児童との接し方、そしてそれを上手に活かしながら指導すること。
- ・私が学びたいことは沢山あるのですが、一番は「楽しく有意義な授業にするにはどうしたらよいか」ということを学び身に付けたいです。
- ・子どもとふれあうこと。
- ・児童や他の先生方と毎日関わる一方で、自ら授業や教材研究をしていく中で知らぬ間に溜まるであろう疲労の克服や、児童一人ひとりの適度な関わり方や人間関係（信頼関係）の育成などを学びたい。最近小学校では読書活動が多く行なわれているようなので、読み聞かせをして、本の面白さや深さを伝えたい。
- ・教師としての自覚を学びたいですが、やはり今の子どもはどれほどの事ができ、どれほどの知識があるのか知りたいです。
- ・今の児童の実態や授業について学びたいです。してみたいことは、一緒に遊びたいです
- ・児童が普段どんな話をしているのか、教師に対してどんな言葉を使うのか、他の先生たちの対応などを学びたい。そして、児童と一緒に外で遊んでみたい。
- ・多くの児童の中で、どうしたら児童からの注目を浴び、うまくまとめられるかを担任の先生の様子を見て学びたい。
- ・授業する中で「分かった」という瞬間を一緒に感じたい。
- ・現場の先生たちの授業の仕方はもちろん、どのようにして学級づくりをしているのか、工夫していることなどを一番に学びたいです。また、短い期間なので、できるだけ多くの生徒に話しかけ、一緒になって遊んだり、話をしたり、学んだり、たくさんのコミュニケーションを図りたい。
- ・実習先の先生たちの児童一人ひとりへの接し方、付き合い方、児童を引き付ける先生の



魅力を学びたい。

- 授業の中で、集中させるために先生方がどのような方法をとっているのか、それでも集中が途切れてしまったら児童をどう指導しているのか。休み時間や給食の時などどのように児童に接し絆をつくっているのか。
- 児童と関わっていくことの楽しさや辛さ。
- 実際の教育現場で教育をされている先生方から、子どもたちの生の姿を聞いてみたい。また、この機会に自分の「教師」としての姿を見つめ直してみたい。
- 子どもとの接し方にプライベートと教師の立場では違いがあるのかを聞いてみたい。
- どのように指導すれば児童は注目、集中してくれるのかを学びたい。
- 児童生徒がついてくる指導の仕方を学びたい。また、児童が目を輝かせるような授業がしたい。外国語授業とか。
- 現場の先生方の教育技術、子どもとの接し方などについて少しでも学びたい。

#### 【教師からのアドバイス】

学習や生活全般の中で、具体的に児童とどう接していったらよいのかを、今回の実習を通して学んできたという回答が多かったようです。また、大学における模擬授業では、すでに指導内容を理解している学生仲間が答えてくれるので、授業がスムーズに流れるが、実際の児童相手の授業では、思い通りに授業が流れないのが通常です。現場のベテランの先生方は、指導法をどのように工夫したり、身につけている教育技術や教材教具をどのように活用しそれに対処しているのかを知りたいという思いも強かったようです。それらに関しては、観点を決めてしっかり参観したり、直接伺ったりしながら積極的に学ばなければその問題は解決しないかもしれません。教育実習を十分に活用し、少しでも各自の問題が解決できる状態で大学へ戻ってきてほしいと考えています。

#### (4) 教育実習にあたって現在不安に思っていることについて

- 児童のことをきちんと叱ることができるのだろうか。甘くしちゃうそうで不安です。
- 実習中どんなことをすればよいのですか。
- 3週間は、1年の中ではとても短いはずですが、経験のない中でのいきなりの緊張感に心身が持つか心配です。
- しっかりとした指導案を作成し、授業がこなせるのか。
- できるだけ迷惑をかけないように、教育実習をしていきたいのですが、全てに自信がないのでとても不安です。

- ・授業をすることが一番不安です。児童にどのようにしたら伝えたいことが伝わるのか…口下手なので心配です。あと、髪の毛をどれくらい短くすればいいのですか。
- ・子どもが自分になついてくれるか。質のある指導ができるか。
- ・私は人前で話すことがあまり得意なほうではないし、それは今改善している途中なのですが、児童の前に立ってしっかりと話すことができるのだろうか。授業をしっかりとできるのだろうかなど正直いって不安なことはたくさんあります。
- ・自然に教室に溶け込むことができるかどうか。
- ・知識がまだまだ少ない点。
- ・自分に「教師」としての魅力があるか。子どもたちにとって良い学習の場を展開できるかどうか不安です。
- ・児童と打ち解けられるかどうか。それと指導案作成です。
- ・子どもたちと仲良くできるかどうかとか、本当に子どもの前で教えられるかどうかなどたくさんあります。
- ・極度の上がり症なので、上手く話せるかが心配です。
- ・授業の準備がちゃんとできるか。時間通りに学校へ着けるか心配です。
- ・きちんと子どもたちが理解できるような授業ができるのか。子どもたちをダメにしちゃうのではないかなど。授業を行う上での自分の技術に対しても不安です。

#### 【教師からのアドバイス】

皆さんからの回答で、不安要素として多かったものは、人前で緊張せず話せるかどうか、自分と児童の関係がうまく築けるか、自分の現在の力量で質の高い授業ができるか等でした。一つ目の心配は、実習初日は誰もが経験することですが、日が経つにつれ緊張感は薄れみんなのペースで指導できるようになるものです。多くの先輩も同じ心配をしていましたが、実習後聞いてみると思ったより緊張しなかったというのがほとんどです。心配しないで児童の前に立ってください。大丈夫すぐ慣れますよ。二つ目の心配ですが、児童はみんなが思うよりすぐ心を開き、懐いてきます。一緒に学習したり、生活することですぐ受け入れてくれ、自然に溶け込むことができるでしょう。三つ目の心配ですが、長年教員をしていますが、自分で納得できる質の高いよい授業はなかなかできないのが現状です。勿論経験を重ねると、より高い目標を設定するようになることもありますが。皆さんも現在の力量を十分に発揮するよう毎日努力することと、3週間の中で先輩の教師から多くを学び取り、一つでもいいから自分のものにできたら有意義な実習だったと言えます。全力で取り組んでください。そして、今回の実習から多くを学んできてください。



## 2、実習校からの要望があった実習に臨む心構えとして身につけてきてほしい点

実習を引き受けるにあたって、また実際引き受けてみて「こんな学生には実習に来てほしくない」という実習校の先生方の要望・意見を受け、事前指導の中で特に3点を強調して指導していった。その3点とは、

### (1) 教師になりたいという強い意志をもって実習に臨むこと

「教師になりたいという強い意志を持たず、単に単位修得のために実習に来られると、忙しい時間を割いて指導する現場の教員にとっては迷惑である。」「将来自分たちと同じ教員になる後輩だと思うから、親身になって指導するが、身に入らない実習をされると指導者側の意欲も失せる。」「実習生が3週間学級に入ることで、学級経営や学習計画にズレが生じることがある。実習終了後に再度指導のやり直しを行うこともある。」

このようなマイナス面を引き起こさないよう、一生懸命実習に励んでくれると指導者側も嬉しいという声が寄せられている。

逆に管理者側からは、若くエネルギッシュな学生が実習に来ることで、児童たちも喜び、先生方にとっても刺激になるというプラス面での話もよく聞く。さらに、現役の教師にとっては、客観的に自己の授業力や学級運営を反省するいい機会ともなっているという声もある。大学での指導ではマイナス面ばかり強調し学生を萎縮させず、若いからこそできる面を大切に自信をもって実習に臨むよう話している。

### (2) 学生気分で実習に臨まないこと

「児童たちの指導に失敗や過ちは許されない。」「児童たちは実験台ではない。」「教育は1回限りのものと心得、真剣勝負と思って臨んでほしい。」「寝坊や健康管理が悪く急な遅刻や欠席は、教育計画を狂わせ、児童たちの学習計画に多大な迷惑をかける。」また、「保護者との信頼関係を失うことになることから、いつも真剣に実習してほしい。」

これらの意見に対し大学では、学生だから許されるという甘い考えで臨まないよう強く指導することになっている。

「服装・言葉遣い・勤務態度、この全てが児童の教育に影響を与えていることを知ってほしい。」という実習中のマナーについては、教師の一挙手一投足が、全て児童の育成と関わっていることを自覚し、つつい学生気分で気を緩めることのないよう心を引き締めて実習に臨むよう強く指導する。

逆に指導に対しては謙虚に受け止め、情熱的な実習態度を取ることは、職員から好意的に迎えられることを知らせている。さらに、実習生も児童にとっては「先生」であることか

ら、「教師というイメージ」を損うことなく、信頼関係を築くよう指導している。

**(3) 如何に学ぶかは自分の気持ち次第。実りある実習になるか、そうでないかは自分次第。**

「目的も明確でなく、課題も持たずに実習に臨むとその成果も薄いものになる。」他人に言われて取り組むような実習からは、得るものも少なく、自分を成長させることもない。」これは、教職に限ったことではなく社会一般に言えることで、教育実習はキャリア教育の一環でもあることから社会人としてのありようを学ぶ場でもあることを強調している。また、「児童をうるさい存在、煩わしい存在と思うな。」甲高い声、常に動き回りじっとしていないのが子ども時代の特徴であることをおさえ、そんな児童たちと寄り添って仕事をするのが教師なのだという自覚を持って接してほしいと授業の中で話している。

さらに、「どんな時も、安全優先、子どものことを優先して考えるのが真の教師である。」とおさえ、安全・安心あつての学校教育であることを考え、行動にあつての判断基準とすると同時に、いつも児童にとって一番いい方法を考えて実践にあたるよう指導している。

逆に一生懸命やれば、児童は付いてくるので心配せず実習すること、授業で困った時なども児童が助けてくれる。教育実習期間中は緊張もし、夢中になって実習を続けていたが、実習後真剣に教師を目指そうという学生がほとんどである。それだけやりがいのある職業であり、魅力的な職業でもあることを知らせ意欲化を促している。

### **3、勤務上の心得として、法を知り法を守って実習を行なうこと**

教育公務員を目指す以上、法で定められた義務については実習生といえども内容を知り、遵守しなければならないことを指導し、現場の学校に迷惑をかけず実習をするよう指導することになっている。

**(1) 職務上守らなければならない義務について知る**

- ・法令に従う義務（地公法32条）…社会一般の法令や各学校の服務規程に従うこと。
- ・職務命令に従う義務（地公法32条）…校長・教頭・指導教官の指導に忠実に従うこと。
- ・職務に専念する義務（地公法35条）…アルバイトに時間を取られ、教材研究をおろそかにしないこと。

**(2) 身分上守らなければならない義務について知る**

- ・信用失墜行為の禁止（地公法33条）…法令違反及び教師として児童の模範にならない行動や態度で実習に臨まないこと。

- ・守秘義務（地公法34条）…実習先で知った児童についての学習・生活一般・家庭の状況等について実習中・実習後も外部に洩らす行為をしないこと。
- ・政治行為の禁止（地公法36条）…授業等の中で特定の政党名を挙げて応援するというような言動をしないこと。

この他に、特に、各学校で規定している教職員の服務規程（勤務時間・出勤簿の取扱い・禁煙事項・休憩時間や放課後の過ごし方・各種公簿の扱い・学級事務等）については、事前打ち合わせや、実習の中で具体的に指導していただき、それに従うよう指導している。

その他、これまでの実習における反省事項より、実習中予想される具体的な禁止事項や留意事項として以下の点を付け加え指導している。

**（教職員や保護者に関する事項）**

- ・人間関係を豊かにする職場の職員や保護者に対する挨拶の徹底。
- ・指導を受ける先生方には敬語を使用し対応すること。
- ・先生方の指導や説明に対し必ず返事をする事。
- ・日誌、指導案等の提出物の期限をきちんと守ること。

**（児童に関する事項）**

- ・体罰は絶対にしないこと。
- ・自分の判断で医薬品を与えないこと。
- ・学校の許可なく児童を校外へ連れ出さないこと。
- ・子どもの写真や作品等を無断で使用しないこと。
- ・児童に褒賞として物品を与えたり、児童から物品を貰うこと。

**（学校備品に関する事項）**

- ・学校の事務用品や備え付け教具を学校外へ持ち出さないこと、誤って備品を破損した時は指導教官に連絡すること。

**（服装・言動に関する事項）**

- ・茶髪、イヤリング、濃い化粧、香水、高価な金品、汚れた衣服の着用をしないこと。
- ・携帯電話の教室への持ち込み、お菓子、ジュース等の持ち込みは禁止する。
- ・時と場をわきまえない礼を失する言動のないようにすること。

#### **4、実習の3形態とそれぞれの実習内容を理解し実習を行なうこと**

3週間という短い実習期間を受動的に過ごすのではなく、能動的に過ごすには、アンケートにもあった「実習で何をするのか。」を明確にしておく必要がある。すなわち、3週間という実習の概略を理解させ、それぞれの場で何をするかを学生が理解した上で実習に臨ませ

なければ、主体的な実習にはならない。以上のことから、実習の3形態とそれぞれの内容を学生及び実習校へも示し共通理解に立って指導していただくことにしている。

### (1) 観察実習について

特に1週目前半から中盤にかけて、教育環境、校内の様子、児童の様子、指導教官及び他の先生による各種教科の授業・道徳や特別活動の様子を参観することで、実習の基本事項を理解させる。

- (学校環境) ・校舎の構造 ・施設設備とその管理 ・校区の様子等
- (学校・学級の様子) ・各学級の備え付け備品 ・掲示物 ・採光と換気等
- (児童の様子) ・座席, 各係り分担 ・日直の仕事 ・交友関係 ・学習への取り組み方 ・個人差と性格 ・休み時間, 給食時間の過ごし方等
- (教科) ・教材づくりの工夫 ・指導技術(指名の仕方・発問の仕方・板書の仕方等)
  - ・学習の進め方(学習訓練, 学習ルール) ・学習形態(個別・小集団・全体指導)
  - ・教材, 教具, 機器, 資料活用の仕方 ・机間指導の仕方 ・理解度に応じた対応
  - ・ノートの活用等
- (教科外) ・道徳教育の指導の仕方 ・学級活動, 委員会活動, クラブ活動の様子

### (2) 参加実習について

特に1週目後半から2週目を中心に指導教官の補助や授業の一部を受け持つ。

- (学級活動や学習指導) ・朝の会, 帰りの会の指導 ・教室環境整備や作品掲示などの手伝い ・係活動の助言 ・授業に使用する教材, 教具の作成や資料収集の実際
  - ・ノートや作品の処理 ・授業に使用する用具の準備と後始末と確認
- (学級・学年行事や学級事務への補助) ・学級, 学年行事時の安全管理と児童の把握, 手伝い ・学級事務の手伝い
- (生活指導の参加と補助) ・登下校の安全指導 ・給食, 清掃指導 ・健康観察指導
  - ・余暇の指導 ・生活のきまりに対する指導
- (一部の教科授業実践) ・指導案を立て指導の実際を体験する ・指導教官からのアドバイスにより授業反省と授業改善策を考える
- (公開授業研究に関する事項) ・公開教科, 単元, 授業箇所を決定する ・資料収集と教具の工夫の仕方を考える

**(3) 実習指導について**

特に2週目後半から3週目を中心に、自力で指導案を作成し実践を積むことで、自己の授業力を高める。また、自己の研修課題の解決に向けた追究とまとめをする実習。

(教科や単元の本質を追究，指導法を工夫する) ・教えるべき事項と考え伸ばす事項，高める技能等を明らかにし目標を立てる ・クラスの実態を考慮し「わかる」「できる」「身につく」児童の実現に向けた指導案作りを試みる ・理解度や意欲を喚起する教具や活動の工夫を考え実証する ・指導教官からのアドバイスをもとに指導力を高める

(自己課題の究明) ・実習にあたって設定した自己課題について，3週間の実習から得た事柄を成果と課題という形でまとめ，次なる課題を設定する

実習に携わってくださった先生方，実習に協力してくれたクラスの児童に感謝の気持ちをもって最後の日まで息を抜かず，一生懸命努力することで実習をさせていただいた感謝の気持ちが伝わるように努力させる。

さらに，手引き書には基本的な実習生の一日の過ごし方を，登校から下校までを表を表し，それぞれの場で何をしなければならないかを示し，安心して実習に臨めるようにしている。

**5, 実習評価の観点と評価基準を示すことで評価の共通化を図る (10段階評価)**

項 目	評 価 の 観 点	評価	
実習態度	勤務態度	実習への意欲，出勤状況，マナー，指導教官の指導に対する対応，教師としての自覚	
	実務能力	学級経営上必要な事務処理の様子，実習日誌や提出物の期日までの提出状況	
学習指導	教材研究	指導案の作成状況，授業に必要な教材・教具の準備，実験器具，体育用具の安全管理	
	指導方法	動機づけ，授業展開，教材・教具の活用，発問，指示，板書，説明の音量，児童の活動等	
生活指導	生徒理解	児童との触れ合いの様子，給食指導・清掃指導の状況，委員会クラブ活動への参加状況，放課後指導等	
	学級指導	児童の掌握の仕方，児童への指示の徹底や指導の仕方，係や当番の指導等	
総合評価	(教師としての資質の評価を含む) 10段階評価		
総合所見	※ 記述方式		

**実習態度・学習指導・生活指導における評価基準（参考例）を示す**

	10, 9 (優)	8, 7 (良)	6 (可)	5～1 (不可)
勤務態度	職員への礼節をわきまえ意欲的に実習していた	指導されたことはきちんと守られていた	教職に就くには今後とも一部指導を要する	意欲に欠けよく注意されながら実習していた
実務能力	記述内容もよく誤字脱字もない日誌だった	記述内容が形式的で課題に対する深まりがない	要点の押さえが甘い記述内容が見られた	誤字脱字も多く決められた期日に提出できない
教材研究	自力で教材を研究し授業準備がよくできていた	一部指導することで理解し事前の準備もできた	指導教官の助けを借り事前準備ができた	指導してもよく理解していない
指導方法	児童の学習状況に応じ指導法を工夫していた	準備した教材・教具を活用した授業ができた	教師中心の教え込みの授業だった	児童の理解不足の授業だった
児童理解	自ら垂範実行し児童のよいお手本となっていた	一緒に行動し、的確な指示を与えていた	児童の後ろから付いて行動するだけだった	ただ見ているだけで十分な指導がされなかった
学級指導	児童の性格・特性を理解した指導がされていた	教師がリードし学級全体の児童をまとめていた	指導教官に指示された事柄の指導はできた	学級を掌握できないでいることが多い

**総合評価（10段階評価）の基準を示す**

- ① 実習態度・学習指導・生活指導 の各3つの項目評価を基に、総合的に評価をしてください。
- ② できましたら教師としての資質が備わっているかどうか加味して評価してください。

**(判定基準 参考例)**

- 10…教師となる資質を十分備え、教育実習内容もよく、優れた素質を持っていると考えられる。
- 9…教師となる資質も備え、指導内容もよく理解し、工夫しながら意欲的に実習を行っていた。
- 8…教師となる資質もありそうで、指導内容を理解し明るく・元気に計画に従って実習を行っていた。
- 7…教師となる資質もありそうで、一生懸命実習を行い児童との触れ合いもよく図っていた。
- 6…教師になるのには、さらなる意識改革と努力が必要だが、実習の意義を理解し本人なりに児童理解と実践に努めていた。



5以下…提出物が遅れたり、注意散漫なところがあるなど実習態度に問題があり、教師としての資質も不十分である。

#### 総合所見について

教育実習全体を通して気付かれたこと、毎日の実習の様子、評価に対する補足説明等についてご記入いただければ、実習後の指導に役立てていきたいと考えております。

#### 実習校の評価結果一覧（平成22年度実習生18名）

評 価	10	9	8	7	6	5
実習態度	0人	1人	9人	6人	2人	0人
学習指導	0人	7人	4人	5人	2人	0人
生活指導	1人	7人	4人	6人	0人	0人
総合評価	0人	6人	7人	4人	1人	0人

### 6、大学の事前指導に対する感想と意見（大学の授業に関する外部評価）

本学では、前期及び後期の授業終了後、学生に授業アンケートをお願いし、各項目ごとに学校全体と比較し自分の授業結果がわかるようにし、今後の各自の授業改善へとつなげている。しかし、この評価は学校内部の評価であり、客観的に外部の目から見たときの授業評価にはならない。公立の小学校・中学校では十数年前より保護者や地域有識者の外部評価を学校経営の見直しに生かしている。本学のある滝川市においても、小・中・高等学校それぞれが保護者、校種の違う学校教師、地域住民から評価委員を選任し、外部評価を取り入れた学校経営の見直しを行なっている。大学においてもその必要性は十分理解しているが、具体的方法となると難しい側面を持っており、なかなか実現には至っていない。そこで、本コースでは、教育実習の場を活用し、実習校から実習及び事前指導に対する感想・意見・要望をいただき、それを基に大学における指導の見直し、授業改善を行い、その改善された点について事前説明会の中で伝え、さらなる意見を伺う場を毎年設定している。

以下過去5年間の実習校からいただいた感想・意見・要望事項とそれに対する大学の考えや指導改善を行なった点について述べる。

#### (1) 平成20年度実習より（ゴシック部分は寄せられた意見）

##### 『大学における事前指導のあり方と改善点』

- ・指導案の書き方や授業における発問の声など事前指導の充実ぶりがよく伝わってきた。
- ・本校の実習生は、事前指導の内容が身につけていました。
- ・事前に指導案を書いたり、模擬授業をしたりする実習があったことから、3週間という

短期間であったが実践的な実習を行なうことができた。

- ・昨年度に比べると社会人としてのマナーなども指導されているように感じましたが、実習日誌の書き方などの指導をもっとしてほしい。
- ・実習日誌の書き方（丁寧な字で、ペン書きする等）を事前指導していただけるとよい。
- ・実習日誌の書き方についてもっと細かく指導しておいてほしい。（ペン書きなのかコピーを貼るのかなど）
- ・学校評価の計画の立て方や日常の授業評価についての知識・理解があると更に良いと感じた。

**（大学側の反省と改善点）**

- ① 次年度の事前指導の中で、実習日誌の書き方について諸注意（ペン書きをする等）をさらに徹底した指導を行います。
- ② 日常の基本的授業評価の仕方についての指導を再度指導します。

**【実習に臨む学生の心構えと実習態度と改善点】**

- ・毎日汗だくになって遊んでくれたり、実習に対する貪欲な姿勢を見せてくれた。私たちにも大きな刺激を与えてくれた。
- ・挨拶や服装、話の聞き方など、基本的なことが2人共しっかりしていた。子どもたちとも積極的に関わろうとしていた。
- ・よい実習生に恵まれた。子どもたちとの関わり、礼儀など申し分なかった。
- ・大変前向きで良かった。
- ・事前打ち合わせで、職場に来る時の服装や髪などといったマナーを身につけた上で来てほしい

**（大学側の反省と改善点）**

茶髪の禁止や、長髪について注意し、事前に個々の学生をチェックした上で実習に臨ませましたが、一部学生の中に時と場をわきまえない服装や職場のマナーに欠ける場面があったとのことです。次年度の学生には、事前指導の中で事例を挙げて具体的に指導していくように改めます。

**【事前打ち合わせについて】**

- ・この会で具体的なことが確認できたので、今後も同じくらいの時期に開催してほしい。

**【実習内容・実習日誌に関する事項の反省と改善点】**

- ・実習日誌の各時間の記録が簡単すぎる気がした。1時間ごとの感想や指導された事項も

記入できると良いと思う。

- ・実習期間を今の3週間よりさらに長いほうがいいと思う。
- ・実習日誌の検印が指導者と校長、教頭の3名になっているが、実習担当者の欄もあってもいい。
- ・学生なのでノート感覚で鉛筆書きをしていた。ペンで清書するよう指導したがこれでよかったか。また、指導案や授業計画を貼付するようにしたが、ファイル又は別冊の方が使いやすいように思う。(日誌とは別に)
- ・実習生が記述する「感想・反省」のスペースはもっと広くても良いと思う。
- ・授業記録は各学級での様式があると思うので、各自で作成するのはどうか。
- ・自分が実習した時の日誌帳から比べると記述スペースが少なくなっていると感じた。左ページは現行通り、右ページにメモするページなどがあってもよいと思った。(実習生が別に記録ノートを準備していたので)
- ・ノート式ではなく、バインダー方式にすると資料やメモ(ルーズリーフなどを活用)など1つにまとめてファイリングすることができ、便利なのではないか。(他大学で実施していた方法のほうがよいと思った)

(大学側の反省と改善点)

- ①実習日誌に書く分量につきましては、前年度の反省で、書く分量が多いため実習日誌の記入に時間が取られすぎていたというご意見があり、今年度のようにいたしました。授業後の感想や授業計画・公開授業研究の資料等日誌に貼付できない分量の時は、ご意見にありましたように各自のファイルを準備させるよう指導を改めていきます。
- ②実習期間の延長につきましては、短期大学の場合3週間となっておりますので現状では難しい問題です。
- ③検印につきましては、基本的なものを考えていましたが、学校により「実習担当者」の方にも見ていただけるのであれば、欄外で失礼なのですが横の空白部分に押印していただければ幸いです。
- ④授業案の形式が各学校により異なるように、授業記録も異なる場合は、各学校・各担任の先生独自の形式で書かせても結構です。学生には、別のファイルを準備し対応するよう指導を改めます。
- ⑤バインダー方式等使いやすい方法を教えていただき感謝申し上げます。現在の日誌作成については、各学校に原案を提示し、ご検討いただいたものを印刷したものです。大学では印刷費を抑える関係で、数年分印刷してありますので、できましたらこの日誌を基本にしながら対応できる点については改良を加えていきたいと考えております。何卒ご理解いただけますようお願いいたします。

【その他】

- ・楽しい3週間でした。ありがとうございました。
- ・本年度の実習生も一生懸命取り組んでいた。大学側の指導にお礼を申し上げる。
- ・実習生との事前打ち合わせは、本校では7月中旬に行なった。テストなどで学生は忙しい時期かと思うが、こちらは夏休み前でよかった。
- ・実習生を2人ずつペアにするのは良いと思う。相談したりお互い協力したり励まし合う姿が見られた。
- ・大学の担当教官に研究授業を見ていただけるなど、大学側の配慮を感じた。
- ・大変一生懸命取り組む姿勢が素晴らしいと感じた。
- ・3週間の実習計画を例示していただくと助かる。(計画例一覧等)

(大学側の改善点)

ご要望にあった3週間の基本的な実習例を作成いたしました。ただ、あくまでも参考例ですので、各学校独自の計画で進められて結構です。

—大学側の全体的な改善点—

改善点1…これまで簡単に行なっていた「実習日誌の書き方」指導をより丁寧に行う

- ・書き方の例を示し指導する。
- ・ペン書き・丁寧な字での記述をするよう指導する。
- ・多くの記述を要する場合や、指導案つづりのように資料が多い場合は、学生に別途ファイルを準備するよう改める。

改善点2…実習態度や服装・髪型、言動について具体例を挙げて指導の徹底を行なう

- ・学校訪問時の個々の学生の服装・マナー指導をする。

改善点3…授業の中で簡単にできる評価のし方を新たに付け加えた指導をする。(授業参観から気付いた点)

- ・日常の授業における評価の大切さと、評価場面・評価方法について指導する。

以下各年度ごとに、いただいたご意見と大学側の反省点・改善点のみを抜粋して記載する。

【平成21年度】

【事前指導の内容とあり方に対する反省と改善点】

- ・児童理解や教科における目標は、実習校に学生が来てから実態をもとに担当教師と共に決めたり、焦点化してもよいのではないかと思った。

**(大学側の反省と改善点)**

実習に対する事前指導の中では、一般論の指導しかできず、実態に即した児童理解や的確な指導については、ご意見にありますように当該校にお願いするのが本来の実習の意義ではないかと考えています。各学校・各学級の実態に即した研修ができますようご指導宜しくお願いいたします。

**【実習に臨む学生の心構えと実習態度に対する反省と改善点】**

- ・服装や髪型等の身だしなみがあまりよくなかった。
- ・実習中に「もっと知りたい」「もっと学びたい」という姿勢があまり感じなかった。

**(大学側の反省と改善点)**

教員としてみたときに時と場に相応しくない服装や髪型をした学生がいたことは、本日に申し訳ありませんでした。今後の指導の中で、具体例を挙げながら周知していきたいと考えています。

また、主体的に学ぶという姿勢で実習に臨むよう事前指導をしていたのですが、そのような姿が見られなかったということは、大学の指導不足の結果です。自己課題をもって実習に臨ませるようにし、教職意識の高揚に向けてこれからも力を注いでいきます。

**【事前打ち合わせの持ち方の反省と改善点】**

- ・学校事情に合わせて15時くらいからできないか。

**(大学側の反省と改善点)**

各学校代表の方にお集まりいただいた機会に、各学校の事情をお聞きし、集まりやすい時間帯を決めてまいります。

**【実習全般に対する意見】**

- ・今年が始業式前から実習を開始したが、やはりこれまで通り始業式からのほうがよい。
- ・3週間という短い実習期間であるのに、始業式2日前からの実習では児童との関わりがもてないことから、実習生にとっても児童にとってもマイナスなので、後半に2日間伸ばし児童と触れ合える機会を多くした方がよいと思う。
- ・実習日誌がすぐにバラバラになるのは良くないのでは。すべてバインダーに閉じこむようにしたほうがよいのではないか。
- ・言葉遣いをきちんとできた方がよい。もっと緊張感を持つべきである。

(大学側の反省と改善点)

全校的に実施される夏季の集中講義が、講師の都合により実習と重なり調整ができないことから、今年は苦肉の策として始業式2日前から実習を開始させていただきました。各校のご指摘通り、貴重な2日間を児童と触れ合うことができなかつたことを受け、次年度からの集中講義の組み方に対し、大学の関係者に厳重に話しております。講師の組み換えも含め検討するという確約を得ていますので、次年度以降はこのようなことはないかと思えます。

実習日誌がバラバラになる点につきましては、すぐに印刷製本会社に再度作成のし直しをさせましたので、次年度からの日誌はこのような事態にならないようにしています。

一部の学生の中に、服装や言葉遣いの乱れ、緊張感のなさがあつた、ご迷惑をおかけいたしました。今後は該当学生の再指導はもとより、具体例を基に1年生より指導を強化していきます。

(その他)

- ・指導案作成にあたり、今回は学校のパソコンを貸し出しましたが、指導案作成に際しては、パソコンは不可欠なものになってきている。大学でも個人持ちについて考慮していただきたいと思う。
- ・最後の総合所見は必要ないと考える。
- ・「教育実習評価表」の「総合評価」欄は不要と考えている。わずかな期間で所見を書くことは難しく頭を悩ませている。

(大学側の反省と改善点)

パソコンの必要性は強く感じています。しかし、大変高価なため、苦学生にとっては購入できない経済状況にあり、大学としても苦慮しています。非効率的かもしれませんが、手書きによる指導案作成も認めていただければ幸いです。

「総合所見」欄につきましては、学生本人の今後の研究課題として必要なものと大学側では考えていますが、他の学校の先生方のご意見も参考にしていきたいと思つています。

—大学側の全体的な改善点—

改善点1…児童が登校している日から3週間の実習が行なわれるよう学校の年間計画の中に位置づけていく。

- ・3月の校内の年間計画作成時までに、教育実習期間を市校長会と相談し決定する。

改善点2…実習日誌の製本のし直しを行なう。



- ・実習日誌を糊付けからホッチキスどめに改める。

改善点3…実習に臨む学生の態度を改めさせ実習に対する意識の高揚を図る。

- ・全体指導とは別に事前にチェックし個別指導を取り入れる。
- ・介護等体験Ⅰ・Ⅱの授業と関連させ、実習を受ける態度について徹底する。

—検討事項—

- ① 事前打ち合わせ開始時刻については、各校の意見ではこれまで通りでいいという意見が多いことから変更しない。
- ② パソコンの個人持込については、学生個々の経済状況もあることから、これまで通り各小学校のパソコンを使わせていただけるということで持込はしない。
- ③ 「総合所見」については、その必要性は理解できるので、各指導者が無理なく書ける程度の内容という押さえでこれまで通り継続する。

【平成22年度】

【大学の事前指導のあり方に関する意見】

- ・授業実習のとき、略案の書き方をある程度身につけて実習に来てほしい。主発問、補助発問、学習課題、問題、まとめ、留意点、指示、児童の活動などが区別されることなく書かれていた。実習の1日は短いので、最初からの書き直しはなかなか厳しい。
- ・日誌の記入の仕方について、理解が徹底されていないように感じられた（指導案の添付の仕方や「記録つづり」の扱いについて、どうしたらいいか迷っていた）。指導案の作り方をもう少し練習してきてもらいたいと思われる場面もあった。
- ・一般論だが、社会人としての話し方、文章の書き方についてある程度のことは身につけてきてくれたほうが良いと感じた。
- ・略案・本事案の書き方をもう少し練習してくるとよい。（こちらもどの程度の略案を書かせたらよいか指導が難しかった）
- ・指導案（略案含む）の書き方指導をもっと事前にしてきてほしいと感じた。基本的な1時間の授業の流れや、その場面ごとの主な教師の働きかけ等、動きや文言を知った上で臨んでほしいと感じた。

—大学側の反省と改善点—

1年次の後期に各指導法の中で、教科ごとの指導案の作成の仕方と留意点を指導し、理解の共通化を図るため、小集団での授業実践練習を行なってきています。これを受けて、

2年次前期の実習事前指導の時間に、各自で指導案を作成し、授業実践を行わせていますが、実習に向けての他の指導内容もあり、十分な指導案作成と授業実践とまでいっていなかったことを反省しています。今後は、児童教育コースの先生全員で、指導案作成の徹底に時間を割くよう授業改善を行います。特に学習課題、発問、児童の活動、まとめ方に力をおいた指導を行います。また、教師の働きかけにつきましては、授業の観点として設定し、授業後の話し合いで討議するようにし学生の気づきを大切にしていきます。

指導案の綴じ込みについては徹底不足でしたので、次年度からは、全学生にファイルを用意させ、実習に臨ませます。

社会人のマナーや文章の書き方については、現代の学生で一番気になる点ですので、全校一斉指導ができる教養総合の時間を使い1年間通して指導を強化していきますが、まだまだ、具体的な場面一つ一つに対応できる学生の育成には至っていない現状にあります。児童コースにおきましても、入室時のマナーを中心に日々訓練していきます。

#### 【実習へ臨む学生の心構えと実習態度についての反省と改善点】

- ・指導教官との打ち合わせ内容を忘れてたり、略案ができていないことをごまかそうとする不誠実な学生もいた。
- ・公務員なら懲戒処分にあたりかねない学校の情報が入ったUSBメモリーを忘れていくことがあった。危機管理の希薄さを感じた。
- ・出勤時の押印を忘れ、退勤時に押印する学生もいた。また、実習仲間で互いに助け合う関係があまり見られなかった。
- ・誤字・脱字に注意するあまり、電子辞書に頼りすぎ、普段あまり使われない字まで漢字にする学生がいた。
- ・生活指導の場面で、つい感情的な指導をする学生もいた。常に冷静に対応するよう指導した。また、漢字の筆順、数字の書き方等、板書練習を積んでから授業に臨んでほしいと感じた。
- ・学生の指導にあたっては、大学側と受け入れ側が連携して指導することでより効果的に実習ができるのではないかと感じた。

#### —大学側の反省と改善点—

各学校からいただいた学生個々に関する事項につきましては、実習後学生を呼び個別に指導しました。また、次年度実習に参加する学生に対しては、具体的な事例として話し、理解の徹底を図っています。

電子辞書の所有状況を調査したところ、約半数が所有し活用しています。手軽に辞書が

引けるというプラスの面と文字を覚えられないというマイナス面について改めて指導しました。

漢字の誤字や筆順間違えについては、今すぐ直すことは困難なことから、配属された学年の漢字あるいは、授業単元の漢字を中心に、板書計画作成時に改めて確認するよう話しております。

#### 【実習全体に関する事項】

- ・仕事用に学校の教育用パソコンを貸与した。また、データの自宅持ち帰り用に各自パスワード付のUSBメモリーを買ってもらった。学生へのメモリーの貸与、あるいはメモリーを使わないデータの持ち帰り法について検討していただきたい。
- ・やはり、実質2週間の日程での実習では、学生本人の力を高めるには不足であるとともに、評価を行なう面でも成長をすべて捉えきれない面がある。
- ・誤字が多く、漢字を用いての正しい表記を身につけさせてほしい。

#### —大学側の反省と改善点—

パソコンで使用するUSBメモリーについては、情報漏れの危険性があることから、急ぎ対応する必要があると考え、次年度からは、大学側でUSBメモリーを用意し、学生に貸与し、実習後回収しデータを消去することにしました。

実習期間の変更は現時点では、大変申し訳ありませんが変更することができません。短い期間での指導、さらに評価という点で指導される先生方に多大なご迷惑をおかけいたしますことを心に留め、これからも学生の指導を行ってまいります。

#### 【その他】

- ・特に小学校では、児童と遊ぶ場面が多い。TPOに合わせた服装の選択が必要である。
- ・公共教育機関を利用しての通勤では、利便性に欠けるので、自転車での通勤を許可した。
- ・町で会っても先生と呼ばれることの職責の重さを認識し、単に単位を取るだけの目的で教育実習生を派遣しないよう大学としても事前指導で心構えとして指導してほしい。

#### —大学側の反省と改善点—

通勤時にはスーツ着用、校内では動きやすいようジャージ等の着用を指導してきましたが、前の時間の実習内容によってはスーツを着用し、そのまま、遊びに出かけた学生もいたのかも知れません。着替えた上で心置きなく遊べるよう指導します。

市営バスは1時間に1本しか運行しない滝川市の現状や、学校の位置によっては、公共

機関の利用が困難な場合もあるかと思えます。学校事情に応じ自転車通勤を許可していただき感謝いたしております。ただ、学生にはあくまでも自己責任において交通ルールをしっかりと遵守して乗るよう話しました。

—大学側の全体的な改善点—

改善点1…担当者一人では指導に限界があることから、児童教育コースの教員全員で協力し合い、指導案及び指導略案の書き方がしっかりできるよう学生の育成にあたる。

- ・ 日常の指導は略案中心とし、正式な指導案については、先輩の指導案を参考にさせたり、市内の公開研究会でいただいた指導案をもとに指導していく。

改善点2…毎年繰り返されるマナー指導の不足に対し、代表的な場面を中心に授業の中で取り上げて指導していく。

- ・ 学校全体の取り組みに加え、児童教育コースでは特に授業前後の挨拶の徹底と返事を取り上げて指導の強化を図る。

改善点3…誤字・脱字を減らす取り組みをする。

- ・ レポートや模擬授業における板書を中心にチェックし、全体と個別両面から指導をしていく

改善点4…大学でUSBメモリーを準備する。

- ・ 情報流出を防ぐため、実習に使用するUSBメモリーは大学で管理する。

改善点5…実習中指摘された事項について個々の学生の再指導の場を設定する。

- ・ 実習終了後、「実習評価」及び「総合所見」を基に改善すべき点の指導について、個々の学生を呼び個人指導を行う。

【平成23年度】

【事前指導のあり方に対する意見と改善点】

- ・ 現場の小学校教師による事前指導も検討されてはどうだろうか。
- ・ 大学としても実習生の事前指導に苦勞されているものと思う。今回の実習生については日誌の書き方に若干差が見られたのが気になるところであった。
- ・ 指導略案は日誌にペン書き、パソコンで作ってファイルに綴じる、パソコンで作って日誌に貼るといったどちらの方法でもよかったか確認したい。
- ・ 略案の指導では、どのように指導されていたのか資料があるところからも指導しやすい。
- ・ 事前の心構えは勿論のこと、社会人として身につける資質（言葉遣いやマナー）も教育者として重要なことです。教育実習では、教育の内容・方法・技術・評価などが主たる実習内容になることから、この成果を上げるためにも、大学においてマナー指導をして

いただきたい。

—大学側の反省と改善点—

- ①教育実習の事前指導 I・IIとも現在市内の校長先生にお願いし、実習に臨む心構えや留意事項等についてご指導をいただいております。さらに、直接指導に関わる内容につきましては、今後現場の先生方のご指導も検討していきたいと考えています。
- ②日誌の書き方はペン書き・パソコン打ちのどちらでもよいこと、綴じ込みはファイルにすることを、再度徹底していきます。
- ③略案作成は教科により異なっていますが、概ね1枚程度に目標・指導の流れ（導入・展開・整理）・板書計画や簡単な評価法について書かせています。次年度の実習生には、各自が大学で行なった模擬授業の指導案を実習時に持たせますので、参考にしていただければと考えています。
- ④社会人としての正しい言動やマナー徹底には、大学全体としても問題化し講座を設定して指導を行ってきていますが、児童教育コースにおける事前指導では、過去の実習時に指摘された点や一般的に見られる事例を取り上げ指導をしています。時間はかかりますが、一つ一つ積み上げ改善していきたいと考えています。

【実習に臨む心構えと実習態度に対する意見と改善点】

- ・「学ぶ」と同時に「勤務」するという態度をもってもらいたい。
- ・意欲や責任感について一部不十分と見られる学生がいました。この点の指導をしてほしい。
- ・自転車の通勤にともない、運転マナー（横断歩道の渡り方、歩道上の運転の仕方）が子どもにも見られていることを意識してほしい。
- ・失敗を真摯に受け止め、次回に活かそうとする姿勢は見られた。ただ、アドバイスに対し、理解しきれていないにもかかわらず返事をし、同じ間違いを繰り返す場面も見られた。
- ・授業実践後の反省では、感想になってしまうことが多かったため、改善すべき内容について述べるように指導した。

—大学の反省と改善点—

- ①現場での実習機会が少ない学生にとっては、「学習指導」が中心になり、つつい「職務」について気がまわらない点があったことについては、「各自の学び」と同時に「職場体験」としての社会性の認識についても十分配慮するよう二本立ての指導に改めてい

きます。

- ②毎年指摘される意欲的に学ぶこと、責任をもって行動すること、謙虚に指導に従うことを中心に事前指導の中で徹底したつもりですが、まだそのような態度で臨む学生がいたことに対し、大学でも十分反省し対応策を練り直したいと考えています。具体的には、事前指導—実習指導—事後指導としての教育実践演習を一体化させ、立派な教員になるよう指導していきます。
- ③自転車通勤のマナーについて、改めて通学の様子を観察しましたが、ご指摘のように横断の仕方等に問題がある学生が多数いました。この点につきまして、学生には指導を強化し通学時の監視を徹底していきます。
- ④夜遅くまで学生が頑張ったという記述を拝見し、大変嬉しく思いました。その裏で一緒に残って指導して下さった担当の先生方のご苦勞に心の底から感謝申し上げます。

- ・教材研究に時間をかけるのはいいが、かかりすぎるきらいがある。授業課題からまとめにつなげる展開など指導の流れに時間をかける必要を感じた。
- ・「教師として」の前に、「社会人」としての礼儀や態度がもう少し必要であった。また、文字の読み書きなど、基礎学力の低さも感じた。
- ・毎日提出してもらった日誌の中で、誤字・脱字が目立った。授業においても書き順等、子どもたちに間違いを教えることになるので、大学の講義など普段から注意していかなければならないのではと思った。
- ・恒例となってきたのか控室でのお菓子や飲み物は、子どもに見られるのでしまっておくなどの気遣いが必要と思う。
- ・実習開始を始業式に合わせると週の途中からになる。週の初めから行なった方が週のリズムや見通しをもって仕事ができるなどの利点がある。実習生も受け入れ側もやりやすいのではないか。
- ・本校では、2学期初めに宿泊を伴う行事が2つの学年（5、6年）に入っていて、実習受け入れの学年が自ずと限定されるような状況となってきた。そのことを踏まえた上で、実習生の人数を考慮していただきたい。

#### —大学側の反省と改善点—

- ①勤務時間は無制限ではないので、マイペースにならず効率よくするように事前指導の中で話していきます。
- ②文字の書き順については、書道の時間でもひらがなの書き順から指導し直していますが限りがあり苦慮しています。学生には、模擬授業の折なども事前に板書する字について



調べておくことを指導した上で授業を見る視点にもし、学生同士にも意識させるようにしていますが、漢字の数が多く少ない講義時数の中で一つ一つ指導するのは困難な状態にあり、問題解決にはならないと知りつつ各自の努力に任せる状態になっています。

- ③控室にお菓子を持ち込んでいたことは知りませんでした。実習の場である学校には飲み水以外絶対持ち込まないよう厳重に注意します。
- ④東栄小学校の閉校に伴い、1校あたりの実習生の数が今より増えないよう、次年度は、近隣の砂川市や新十津川町にも実習をお願いいたしました。

#### 【その他】

- ・貸し出した教科書をアパートの窓辺に置いたため、雨にあたり2倍の厚さになって戻ってきた。また、返却も2度忘れ約1か月後にやっと戻ってきました。大学というより本人の問題であると思いますが如何なものか。
- ・未記入箇所のある日誌を提出した学生がおり、実習後電話でその旨伝えたが、取りにきたのが大学への提出日ぎりぎりだった。実習に対する姿勢に疑問を持ちましたが……。
- ・大学で模擬授業などの事前指導をする際には、できるだけ実際の場面を想定し、子どもには理解しやすい言葉を使うなどの配慮をしていただきたい。(型にはまりすぎの気がした)
- ・実習前に実習校で授業参観する機会があってもよいと思う。
- ・授業の反省を日誌に書くとき、感想ではなく改善策がしっかり述べられているとよいと思う。
- ・実習生の中にも得意教科や特に指導したい教科あるようなので、事前に希望する学年や教科を教えていただくとその通りにならない場合もあるが、配置の参考になると思う。
- ・「教育実習生調査書」の中に記入漏れがあったので、事前チェックと自己研修課題についての書き方についての指導をお願いしたい。

#### —大学側の反省と改善点—

- ①教科書等の学校備品の破損については、学生を呼んで指導した上で大学側か本人に弁償させ責任の取り方を教えますのでお知らせください。
- ②未提出・提出遅れについては、実習評価を厳しくしてください。大学側でもそのようにすることを学生に伝えます。
- ③児童がいる実際の教室場面を想定することはなかなか難しく、児童の反応予想や学年発達段階に即した発問の仕方では苦労しています。また、型から入らなければ指導案の書き方がわからない学生が出てくることから各教科とも一般的な雛形を示し指導していま

す。授業に慣れてきたら、自分なりの指導案作成ができてくるものと思います。

④授業後の反省をもとにした改善策の指導は、実習終了後改めて教育実践演習の時間を設け大学では指導していますが、実習中の授業反省にも自分の意見や考えを少しでも書くように指導していきます。

⑤特に指導してみたい教科や学年につきましては、各自が研究している模擬授業の指導案を持参させますので、担当の先生と相談させてください。配当学年については、学校事情もおりかと思しますので、学校にお任せしますが事前訪問の折にでも学生の要望もお聞きいただければ幸いです。

#### —大学側の全体的改善点—

改善点1…大学での指導案の書き方見本として、各自の模擬授業で使用したものを持参させる。

- ・せっかく苦勞し作成し、模擬授業で検証した指導案ですので、活用の機会と捉え学生全員に持たせる。

改善点2…社会人としてのマナー指導については、抜本的な対策を考えていかなければならないと感じている。現在は一般的な指導を行ってきたが、今後はこちらの指摘いただいた点を中心に指導の方針を変更し試みることにする。

改善点3…誤字・脱字、漢字の書き順については、小学校で指導する漢字一覧を配布し、手軽に調べやすい状態をつくる。また、日頃の板書練習でもみんなでチェックし合い過ちに気付かせるよう指導法を改善する。

改善点4…実習の心構えとして、主体的な取り組み、責任ある行動、服務やきまりに対する遵守を言い続けてきたが、それでも、そのような行動が取れない学生がいたことを心に留め、授業内容の改善と取扱いの時間配分を見直す。

#### 【平成24年度】

##### 『事前指導のあり方に対する意見と改善点』

- ・略案ばかりに頼らず授業全体のイメージを持って臨むようにしてもらえるとよい。
- ・指導案作成の仕方を事前に指導してほしい。

#### —大学側の反省と改善点—

①模擬授業の経験も少なく、授業に対する不安から指導案に頼りすぎ、児童の様子が見えていないというご指摘に対し、授業は学習者の状況に応じ臨機応変に変化させるよう話していますが、学生にとっては一段高いレベルみたいで難しいようです。今後とも経験

を重ね指導力を高めていきます。

②指導案作成の指導は、各教科の「指導法」の時間で行ないませんが、時間割編成上後期に入るものもあり、実習に備え「国語」「社会」「算数」「理科」の4教科を中心に指導案の書き方を指導しています。全ての教科まで指導できないまま実習に出し、現場の先生方にご迷惑をおかけしている点をお詫びいたします。

#### 【実習へ臨む学生の心構えと実習態度についての改善点】

- ・意欲に溢れ、真面目な学生が多かった。指導教官も連日遅くまで指導案の指導を行い、休日も返上で学生に関わっていた。一部なかなか指導教官の指導が伝わらず、指導案の作成も行えなかった学生もいた。

#### —大学側の反省と改善点—

①指導教官が指導しても改善が見られない学生がいたということですが、まだまだ学生気分で臨み、責任感、使命感に欠けていると思われるので、教育実習終了後の教職実践演習の場で再度指導のし直しをし、意識の高揚を図ります。

#### 【事前説明会のあり方に関する事項】

- ・実習受け入れを始めて数年が経過しましたが、他校の実習内容（カリキュラム、指導案の形式等）を一覧にした資料があると参考になると思う。

#### —大学側の反省と改善点—

ご指摘のあった他校のカリキュラムと実習中の指導案につきましては、学生から入手したものを幾つか事前説明会の折に配布したいと考えています。

#### 【実習全般に対する意見と改善点】

- ・子どもに対する言葉遣いなど、学生気分という雰囲気があった。実習生ではあるが、もう少し教師としての自覚を持って臨んだほうが良いと考える。
- ・公共交通機関の利便性が低い地域の場合、実習生の交通手段として自家用車の使用を検討してみてもよいのではないか。

#### —大学側の反省と考慮—

①言葉遣いについては、職場の先生方に対し敬語を使って話すよう再三指導してきたところですが、児童とのやり取りの言葉遣いまでは気がつきませんでした。児童と親しくなるにつれつつい普通の仲間内の言葉が出たものと思います。ご指摘のように教育者であるという意識と、児童への影響を考えた言動を取るようさらに場を広げて指導してい

きます。

- ②自家用車の使用については、大学では遠方の場合の通学に関して許可を得て使用させるようにしています。その場合も事故に対しては自己責任という判断に立ち、人身等の大きな事故の場合は、退学処分という厳しい罰則を科すことから、できる限り公共交通機関や自転車の通勤を進めているところです。交通の便の問題もありますが基本に沿って進めていきたいと考えています。

#### 【その他】

- ・授業公開日に大学側からの参観者が誰も来なかった時もあった。他校と日程が重複している場合もあるかと思うが、指導にあたる教師と学生が労力をかけて必死につくり上げた授業なので、可能な限り参観し一言いただけたら……と思う。
- ・実習生の数が増えてきているが、本校では2名以内でお願いしたい。
- ・教科書の進め方（1時間に何ページ進むか）が大学で教えられているものと実際では異なっている。（見開き2ページを1時間で終わらせると教えられてきていた）

#### —大学側の反省と改善点—

- ①学生の公開研究にはできる限り参観できるよう配慮しているところですが、ほぼ3週目の木曜日か金曜日、しかも公開時間も重なることが多く、一人2校を受け持って訪問させていただいている関係で、重なる場合には、大変失礼とは思いつつ全ての授業参観をせず他校の学生の参観授業へ移動しています。

また、今年度は父母会が主催し道内外で開催される個人懇談会と重なり、一人で2会場を受け持つ関係上途中で失礼した例もありました。父母会担当者には、教育実習の重要性を強調し次年度以降行事が重ならないよう調整するよう児童教育コースから強く話してあります。

- ②実習校への配置人数につきましては、毎年市内の校長会の皆様と協議し配分させていただいております。それぞれ学校事情もおありかと思しますので、今後とも検討していきたいと考えています。
- ③学生が模擬授業を行なう時、教科書会社の時間配分を一応の目安にするよう指導していますが、大学生相手のため、つい内容が多くなってしまいがちなのが現状です。各学校で編成されている教育課程につきましては理解不足の面もあり、行き違いが生じたかもしれません。私どもの教材研究不足の点を反省しています。

—大学側の全体的な改善点—

改善点1…事前に作成した指導案通り授業するという姿勢から、一步飛び出し、学習者の反応に応じて臨機応変に指導を変えていくという授業スタイルについても後半の模擬授業の中で行なっていく。

改善点2…一人ひとりが指導案作成が確実にできるよう、グループでの作成から個人による作成へと切り替えるようにし、一人ひとりの指導案作成の機会を多くしていく授業内容に改める。

改善点3…学生の公開研究については、優先的に参観できるよう学校行事担当者に働きかけていく。また、児童教育コース内の教員間で都合をつけあいできる限り参観できる体制を組んでいく。

【教育実習を終えての学生の感想】

3週間楽しく実習ができたのもお世話になった先生方のおかげです。ありがとうございます。この実習では、今までと違い「教師の立場」としての実習であったため、児童とどのように接したらよいか悩み、不安でもありました。実習初日から、クラスの児童たちは気軽に声をかけてくれすぐに仲良くなることができました。児童と遊んだり、勉強したり、接するたびに改めて子どもが好きだなあと実感しました。児童と距離をとって接し続けるのではなく、児童を一人の人間として尊重し、礼儀をもって、いつでも本気で前向きに接することが私にとって一番の関わり方だと思いました。また、どんな時でも大人としての冷静さと、児童の感性豊かな心を理解することの大切さを感じました。いつでも児童と共に喜び、感動し、悲しみを共感できる心、授業や集団行動でのけじめ、この2つを大切にすることができたから、充実して楽しい実習になり、クラスの児童たちとも良い関係をつくることができたのだと思います。

授業の準備や日誌を記入するために、連日遅くまで学校に残ってしまったこと、本当にご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。先生方の優しい気遣いとても嬉しかったです。

放課後の部活動も観察させていただきありがとうございました。児童の頑張る姿を見て、昔の自分を思い出しました。バスケット部が優勝した時は嬉しくて感動しました。機会があれば今後も是非応援に行きたいです。

実習中感動したことは数多くありましたが、やはり、研究授業と最終日が一番感動しました。私の授業を助けようと一生懸命に手をあげてくれた姿や、大きな声で説明している姿に感謝の気持ちで一杯になりました。授業後、緊張で泣いてしまう子や褒めてくれる子、子ど

もたちそれぞれの優しさに触れることができ、本当に良かったです。

最終日には、お別れ会を開いてもらいました。挨拶の後も長い間泣いてくれる子や、ずっと話しかけてくれた子、手紙やプレゼントをくれた子、みんな本当に優しく、心から感謝感激しました。

教育実習を通して、教師になりたいという夢を再確認しました。児童と関わり成長を時に見られる幸せ、毎日が感動し新鮮である幸せ、教師である喜びにたくさん触れることができました。また、教材の準備、研究、部活など教師の忙しい仕事の面にも関わることができました。両方の面を見ることができたからこそ、夢として、現実的で具体的な目標として頑張ることができます。

将来は、絶対に小学校の教員になります。実習で出会えた児童の名前は一生忘れません。思い出や先生方への感謝の気持ちを忘れずに将来に向かって頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

## おわりに

毎年教育実習に参加させた学生の育成状態から、教師としてしての資質が身についているか、社会人という目で見たとときマナーや言動は育っているか、という観点から将来日本の教育を背負う教師としての的確性の面から私たち大学での授業のあり方を厳しく評価していた。ともすれば、学生からの限られた観点による授業評価だけで、自分の授業改善を行ってきていますが、授業本来の目的を考えると、大学での学びが実際の社会の中で通用する知識や技能の習得となっていたか、また、大学で身につけた教養や態度が社会に出て行った時、一社会人として求められるモラルまで到達していたか。という最も重要な点については、なかなか検証できず毎日が過ぎているように思う。滝川市内を中心に毎年教育実習をお願いするにあたっては、実習生を送り出す大学側も、指導される各学校の先生方のご苦勞に答えるように毎年努力し授業改善していかなければ、継続した受け入れ態勢は崩れてしまうのではないかと考えている。

指導される先生は毎年変わることから、多様な教師観と豊富な実践に裏づけされた観点から幅広い目で後輩である学生を観察し、時間を超越したきめ細かい指導を行ってくれている。大学の事前指導の内容に関しても、学生の育ち具合から見て年々厳しいご意見をいただくようになって来た。しかし、そのご意見の何倍にもものぼる学生の实習態度のよさを褒める言葉をいただくようになってきている。大学教育に対する信頼を損ねないよう、現場の先生方の声には真摯に答える大学側の姿勢を見せることで、継続した実習体制が確立するものと考えている。



自分の授業に対しても、まだまだ身につけていない、という現場の先生の声を聞くとある程度完成した授業というものはなく、毎年授業構成を変えざるを得ない状況にある。指摘された点を事例として使用した授業を進めているが、指導案が書けない、社会人としてのマナーが欠けているという指摘は毎年寄せられている。限られた授業時間の中でそれらをどう指導していくか。自分一人で解決できる問題ではなく全校的な問題でもある指摘に対し、今すぐには解決できないものもあり悩みは尽きない。また、年々完成に近い授業をする学生を求めてくる現場の先生の声や、前年度より質的な高まりを期待する声にどう応えていくかという問題もある。

ここで、外部評価としての現場の先生方の声から自己の授業改善を行った点について再度まとめてみる。

#### (指導案が作成でき、授業ができる学生の育成)

- 1, 当初は、指導案作成の仕方に指導の重点を置き、実践は現場にお願いするという重点配分をしていたが、現場からは、計画と実践の一体化が重要という指摘があり、大学での指導の中に授業実践の比率を増やしていった。
- 2, 誤字・脱字・漢字の書き順がでたらめという現場からの多くの指摘に対し、指導の中で板書計画を必ず作らせるようにし、授業を受ける学生に対しても、「わかりやすい板書構成」と「正しい文字について」を授業評価に付け加えさせ、文字に対する意識化を図った。
- 3, ただ単に目標に即した授業を行うだけではなく、全体に共通する指導案作成の観点として、重要な3つの授業要素を設定し、「わかる授業」「できる授業」「身につく授業」の構成に工夫させた。その観点として提示したのは、「目標に迫る教師の発問の工夫」「児童の活動を取り入れた授業展開」「一目で一時間の流れが見通せる板書の構造化」である。あまり多くの授業観点を設定しても学生の力量を考えると無理な面があることと、公開授業研究会で学生の授業を参観したおり、各指導担当の先生が特に力を入れて指導している点を大学の授業でも取り入れた。
- 4, 大学での模擬授業だけではなく、実習前に市内の学校の公開研究会に参加させ、現場の先生方の生の授業の様子を参観させる場を事前指導の中に設定した。大学生相手の授業では得られない、子どもたちの反応、各先生方が授業に臨むにあたっての準備の周到さ、各所に見られる指導技術、創意工夫された教材の数々等、大学の学習では得られない貴重な体験の場になっている。大学の授業ではできない面について、言葉で指導するより、実際の授業を参観した方が理解が早いことから、授業の改善策として導入している。

### (教員として、一社会人としてのモラルの向上)

社会人としてのマナーの欠如や学生の雰囲気は抜けない実習態度を改めさせるため、各学校から指摘された事項について具体的な事例として授業の中で取り上げることにした。抽象的な話より、先輩の失敗談として率直に理解するようになってきている。しかし、毎年同じような失敗を繰り返す学生や、新たな事例が増えていくことに対し自分自身の授業だけでは到底対処できないと感じている。現在の学生の問題点として、大学全体でも教養総合講座の中で、社会人としての心の持ち方や言動について1年次に指導しているが、児童教育コースの他の先生方にも協力をお願いし、指導の充実を図っている。

自分の授業の中でも、学校現場の校長先生にお願いし、学校現場でのサービスと社会人として最低身につけるべきマナー等について話していただく機会を設定し、毎年指摘される事項に対する一つの対処法として、学生の意識の高揚につなげるよう授業改善を行っている。

### (教育実習と自己研究課題の深化)

これまで、教育実習に行く前に、自己課題を設定させ、実習後のレポートにその結果をまとめさせていたが、各学校から教育実習の意義を学生個々がさらに意識し、自分から積極的に学ぶ姿勢を示すよう指導してほしいという指摘がある。児童教育コースでは、昨年度よりこの問題の解決法として、これまで行なってきた卒業時の初等教育研究会における発表と研究紀要の作成の観点に改善を図り、1年生の早い時期から、自己の研究課題を意識させる取り組みを行なっている。2年生については、教育実習での検証を基に、課題別に4人の児童教育コースの教師が分担し、個別に学生のレポート指導を行い深化発展した内容を研究発表や紀要に載せることとした。これにより、しっかりとした教育実習を行なわなければ、その後のレポート作成や発表、紀要作成ができなくなり、学生の意識や実習態度も変容してきている。

教育実習を通して自己の授業改善を図るという取り組みを続けているが、指導したい事項が毎年増加したり、自分一人では解決できない問題に直面するなど、悩みの尽きない問題を抱え込んでいる。しかし、外部評価により、社会に通用する力量を備えた学生を育成するという方法に関してははげって間違っていないと確信している。今後とも、地域の学校と連携し、充実した授業になるよう努めていきたい。